

令和3年度第3回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：豊かな岡山の森林を将来に引き継ぐために
- 2 日 時：令和3年10月13日（水）14:00～15:10
- 3 場 所：あわくら会館「あわくらホール」（英田郡西栗倉村大字影石 33-1）
- 4 参加者：県内の若手林業・木材関係者など6名

5 知事挨拶

- ・森林、林業、木材に関わる皆様から、取組におけるやりがいや魅力、可能性、豊かな岡山の森林資源を将来に引き継ぐために必要なこと、具体的なアイデアや将来展望などについてお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介】

- ・西栗倉村と連携して「百年の森林（もり）事業」を進めている。村から山の管理を引き継ぎ、約2,600haの山林を管理している。700人弱の方から契約をいただき、毎年10箇所程の施業団地を作って100ha程度の間伐を実施している。
- ・奈義町豊並地区で、主にスギ、ヒノキの造林用苗木を生産している。岡山県森林研究所が選抜育種した少花粉品種の苗木をマルチキャビティコンテナという容器を使って作っている。
- ・森林組合で、高梁市、真庭市の旧北房町、吉備中央町の旧賀陽町のエリアにおいて、伐って・植えて・育てるという森林の手入れ・管理の業務を行っている。森林所有者が、自分で管理できない山の経営管理を市町村に任せたいという意向があった場合に、市町村が仲介役となって林業経営者につなぐ「森林経営管理制度」に取り組んでおり、森林所有者への意向確認、現地調査、施業提案などの業務を行っている。
- ・新見市で素材生産やバイオマス発電の燃料チップ生産を行っている。10年くらい前にUターンして先代の林業を引き継ぎ、地域に活気を呼び戻し、地域に人が残るような取組ができたという思いで活動している。
- ・県産材のヒノキを中心に集成材用のラミナ、柱材などを製材している。また、平成25年から板材を韓国、中国、台湾に輸出している。韓国では日本産品の非売運動があって他社が撤退したときも、撤退せずにやった結果、今では韓国で社名が有名になってトップの出荷量になっている。
- ・県南の木材製品市場で、年間2万m³程度を取り扱っている。県産材を主体に需要拡大に努めたいが、県南では競争が激しく、ローコストな輸入材に頼らざるを得ないような状況がある。

【取組におけるやりがいや魅力、可能性】

- ・林業では、作業道をどう入れるかが大事だが、すぐには作れないため、伐り出せる木があっても、すぐに出せないところがある。また、50～60年の木で伐れる状態ではあるが、今伐ることが将来の世代にとっていいことなのかの判断が難しく、基準が必要になる。林業では、先ず全体の将来像を描くことが重要で、次の50年後の話を色々な方と話す機会をもっと増やしていく必要がある。村内では最近、製材業や素材生産業12社ほどが協同組合を作って、50年後を見据えた山づくり

のビジョンを作る取組を始めたところであり、山の色々な恵みを見つめ直すきっかけとしたい。

- ・少花粉苗木は森林研究所の選抜育種が進み、岡山県は、ヒノキでは全国で一步リードしている。将来は、県内のみならず県外へさらに多くの少花粉苗木を供給していけるようにしたい。苗木は寸法規格があって作り貯めができないので、苗木の供給は1年先を見て生産する必要がある。足りないと言われなくなるべく多く作っている。
- ・戦後に植林したスギ、ヒノキが、所有者が代替わりして放置され、手入れされないまま大きくなっているケースがある。我々が手入れしたいと思っても、所有者の意向が取れず、手が出せない状況がある。
- ・素材生産業は農業と同じでプロダクトアウト型だが、欲しい時に欲しい木材があるのが、マーケットインで一番大事なことだと思っており、北欧の林業機械を使ってICT林業に取り組んでいる。利益を最大化する採材を行うために、運転席のコンピュータに様々な規格の丸太の取引価格などを予めインプットし、オペレータはその情報を確認しながら作業している。労働生産性を上げるために便利なものを使うには、先ず人材育成から始める必要がある。また、業界全体がデジタル化していかないと本当の恩恵は得られないと感じている。

【豊かな岡山の森林を将来に引き継ぐために必要なこと】

- ・これからは森林の価値化が大事で、山自体をどの様にデザイン化するかという発想が重要になる。例えば、木材生産やエネルギー用の木材チップの生産という側面、CO₂削減や生物多様性という側面、レクリエーション利用の側面など、様々な側面から、デザイン化できる人が必要である。
- ・担い手の確保・育成が必要である。地元高校の2年生に高性能林業機械の研修をしたが、多くの生徒から、実際にやってみると楽しい、貴重な体験ができて嬉しかったという感想があった。職業を選ぶ幅が増えたという生徒もいた。これからも県や市町村と手を組んで、学生等への体験研修や紹介の機会を増やせていけたらと考えている。
- ・林業は儲かるかどうかという視点もあるが、山の管理を滞ると土砂災害に繋がる。川上の人が、川下のユーザーに現状を伝え、山を資源としてみるという視点から、国内産木材を国内で回していける仕組みづくりを日本全体で考えていく必要がある。
- ・木材流通の間を抜いて、直接取引した方が効率的だとする意見もある。しかし、実際には、地元の木材のことは、地元の業者が一番良く分かっているので、選別などモノの善し悪しをみて販売できる材木店が必要であり、無くなってはならない。そうした面からも、県産材を利用していただけるようPRしていきたい。

7 知事まとめ

- ・岡山県のヒノキの生産量は全国トップクラスであり、今後も、他県と切磋琢磨しながら、産業を盛り上げていきたい。
- ・岡山の森林が様々な人の活躍の場となり、県内外から価値を見出されるよう、木材生産をはじめ、防災、レクリエーションなど様々な視点から可能性を探っていきたい。
- ・県としても様々な取組を進めていきたい。